

在宅医療に従事していると、在宅ケアに関するエビデンスの不足から、患者に根拠を持って、治療方針を提案できないことに、悩ましいと感じることがある。また、市民に在宅ケアを必ずしも正しく理解されていないことを感じ、在宅ケアの実際を客観的な形で市民に示していく必要も感じる。そうした問題意識から、規模は小さいながらも、これまで研究に取り組んできた。そして、論文も行った（日本プライマリケア連合学会雑誌：1編、Geriatric Gerontology International 誌：2編）。

しかし、研究を進めるにも、自分の能力（研究に関する知識・技術、自身のマネジメント等）とともに、時間の制約（診療業務との並列）、環境の制約（文献検索、倫理審査等の利用しやすさ）等、様々な障壁があり、必ずしも簡単にできるものではなかった。

今回の発表では、研究成果のハイライトをご紹介しつつ、研究を進めるにあたっての苦労やそれを乗り越えた過程をご紹介したい。